

平成23年11月19日

特別経費プロジェクト拠点代表 征矢英昭 教授

所属：人間総合科学研究科

氏名：酒井利信

第15回BAMISセミナー

「欧州武道の胎動～ヨーロッパにおける武道文化の現状と問題点～」

報告書

I. セミナー概要

本セミナーは、身心の密接な関係を感じながら成熟した武道の文化性が、心身二元論を思考ベースとする欧州においてどのように受け入れられているのか、その現状と問題点について論じることを目的として開催された。今回は「ヨーロッパにおける武道文化の現状と問題点」と題し、20年近く欧州・ハンガリーにおいて文武両道を実践されてきた阿部哲史氏に、欧州における武道の普及状況ならびに問題点、そして今後武道に期待されていることなどについて、氏が専門とする剣道を中心に講演をしていただいた。

現地に剣道を普及していく中で、阿部氏が実際に肌で感じてきた生きた話が展開され、非常に説得力のある講演となった。武道文化を発信する側の人間であるわれわれ日本人にとって今回の講演内容は、普段、日本国内には得ることのできない実に重要な情報であるといえよう。

II. 開催概要

主催：文部科学省特別経費プロジェクト

「たくましい心を育むスポーツ科学イノベーション」

筑波大学大学院人間総合科学研究科 体育科学専攻・コーチング学専攻・スポーツ医学専攻 システム情報工学研究科 知能機能システム専攻

日時：平成23年11月16日（水） 10:00～12:00

場所：筑波大学体育科学系棟 B510

講師：阿部哲史 氏 ゲイト・オブ・ダルマ・ブダペスト仏教短期大学助教授

参加人数：50名

Ⅲ. 講演概要

演題：「ヨーロッパにおける武道文化の現状と問題点」阿部哲史 氏

○発表内容

阿部氏によれば、武道は日本の文化を海外に広めている一番の「輸出品」であり、日本文化や日本人を理解するために格好の身体運動文化である。しかし、発信していく段階で日本の武道が勘違いされ、その文化性も間違っただけで解釈されてしまうことが多い。氏は、こういった誤った形での普及は避けられなければならないという。

近年の欧州における武道の動向として特筆すべきは、武道の非競技的な側面が注目されている、ということである。その証拠として柔道・空手など、競技性が強い武道の非競技者人口が増えているという。また、合気道の実践者が増えており、その理由としては、競技がないこと、長年継続できる指導体系が確立されていることの2つが考えられる。

ヨーロッパにおける武道の問題点としては、①活動環境（用具不足・練習場の確保など）②指導者、③組織、④武道に対する考え方の4点が挙げられる。①については経済状況の安定や、インターネットによる安価用具の販売などにより、かなり解消されてきているとのことである。②についてはある程度のレベルに達してきており、基本的な部分は現地の指導者のみでも指導できるようになってきたようである。しかし、日本の指導者と現地の指導者の間にある、武道指導における経済的な意識の違いなど、まだ問題は多く残されている。③については、日本文化であるが故に、コントロールしたいという意識を日本側が少なからず持っており、そのため現地との摩擦が多く起こっているということである。この現象が特に顕著に起こっているのが剣道であり、今後解決すべき喫緊の課題といえる。④武道に対する考え方については、競技性と文化性のバランスに関する議論が多く起っており、競技性が強く追求されてきた武道の人气が落ちてきているということである。この現象は柔道や空手に顕著なようである。

そして欧州の武道実践者が武道に何を期待しているのか、ということについては、以下の3点が挙げられる。1つ目はオリンピックにより支配され、商業主義におちいったスポーツとは違った価値の追求である。これを顕著に表すものとして上記の合気道実践者の急増、という現象などがある。2つ目として伝

統性が挙げられる。欧州の人々は古いものを好むとよく言われ、武道についても歴史・伝統への憧憬があるということである。また、心身二元論を思考ベースとする欧州においては身心統合のモデルとなるものがなく、身心を不可分ととらえ、一如的なはたらきを求めてきた武道に魅力を感じている部分もあるようである。3つ目はアジア文化を理解する手立てとなることである。近年、ヨーロッパ全体の流れとしてアジア文化への接近がある。新しいスポーツとして武道を取り入れたと思われがちであるが、その背景には欧州全体にアジア文化導入の志向があり、アジア文化として、武道をはじめとするアジアの身体運動文化が今、注目を浴びているのではないかということである。

以上が阿部氏の講演の要旨である。

○質疑応答の内容

フロアの参加者それぞれの立場から、武道のような伝統文化を乱すことなく普及する対策、武道特有の曖昧で難しい表現を海外で指導する方法、競技性と文化性のバランスをいかに保つべきか、韓国剣道について、剣道の「一本」という有効打突の概念に対する認識のギャップ、などに関する質問が投げかけられ、活発な質疑応答ならびに議論がなされた。

この質疑応答で特に注目すべきは、阿部氏の指摘する、現在の武道の海外普及の弱点である。日本人は競技性ばかりを普及する傾向があるようで競技性重視の普及から徐々に文化性重視の普及へ切り替えていく必要があるということである。現地では何が伝統かわからない状況が未だ続いているため、正しく質の高い知識を正しい形で伝えていくことが大切である。また、曖昧で難しい表現の武道特有の用語についてはあまり咀嚼せずにそのまま伝えて自分たちで考えさせる機会をつくるように図ることが大切である、というのが阿部氏の見解である。しかし伝える側が勘違いしていることが無いよう、現地に渡る前にある程度の知識や理論を身に付けておく必要はあるようだ。〈文責：軽米〉